

中津川市の取り組み紹介



恵那山と市街地



地歌舞伎



ヒノキ



付知峡



栗きんとん



苗木城跡



五平餅



中山道 馬籠宿



恵那文楽

令和5年10月26日

中津川市
政策推進部政策推進課

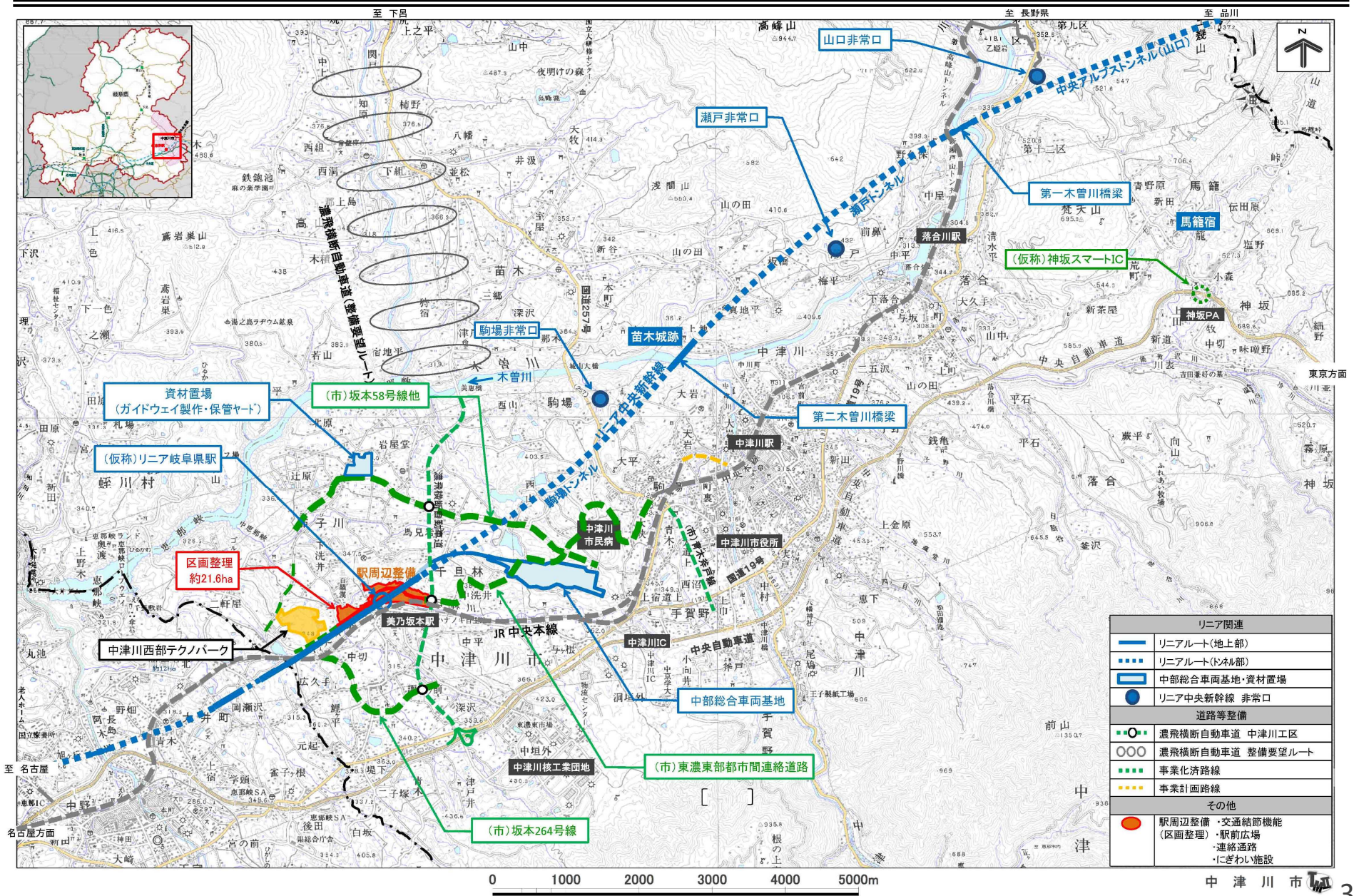
中津川市 リニアを活かしたまちづくり



中津川市に、「リニア岐阜県駅」と「中部総合車両基地」ができるというアドバンテージを最大限に活かし、その波及効果を市域のみならず広域に行き渡らせ、持続的に発展するまちづくりを進めています。



リニア開業に向けた社会基盤整備

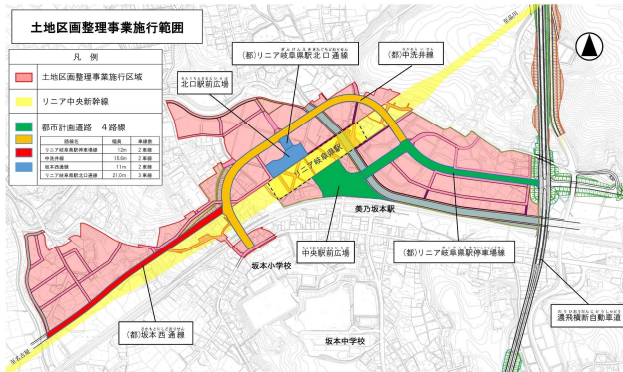


リニア岐阜県駅周辺の整備状況

- ◇令和4年6月11日、リニア岐阜県駅 安全祈願・起工式。岐阜県の東の玄関口にふさわしいまちづくりと、市民、駅利用者の利便性向上、住環境整備のための工事を推進。現在、リニア岐阜県駅東端部付近の橋脚基礎工事、橋脚工事等を鋭意推進
- ◆施設配置については、令和4年3月「中津川市リニア岐阜県駅周辺エリアデザイン指針」を作成し中間とりまとめ(有識者検討・市主催)。現在、「岐阜県らしいリニア駅・駅周辺整備」について検討中(有識者検討・県主催)

■ 土地区画整理事業

平成29年10月 市内で初となる事業計画を決定
(約21.6ha)

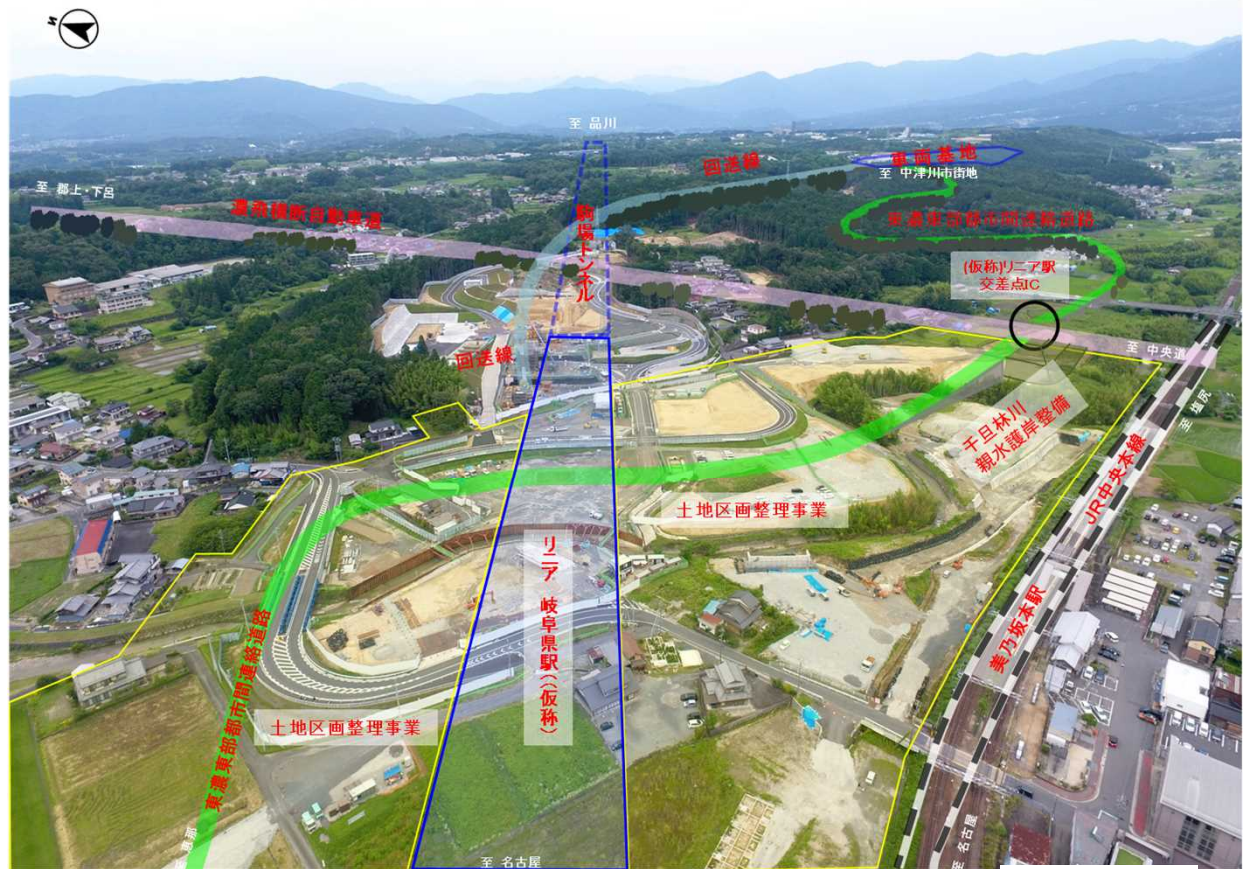


■ 施設配置イメージ

恵那山の眺望も意識しつつ、中央駅前広場、親水公園を建設する等、リニア駅周辺についてコンパクトで使いやすい施設となるよう検討



リニア岐阜県駅(JR東海)・土地区画整理事業(市)・千旦林川親水護岸整備(県)

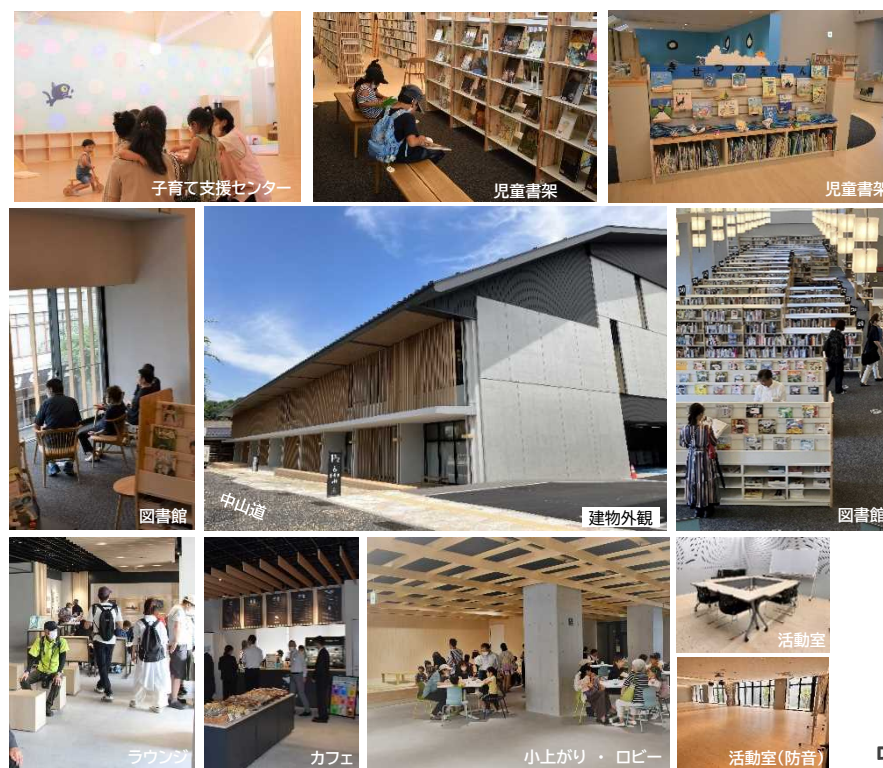


令和5年7月撮影

◇子育て支援、市民交流、学び、観光の4つの機能をひとつに集めた新たな複合施設
◇幅広い世代が集うことで利用者同士の多様な活動を育み、新たな出会いや交流が誘発され、今までにない発見や創造のきっかけが生まれます

◆中心市街地に人を呼び込み、にぎわいを生み出す施設の最初のイベントとして、7月15日の竣工式典では市や地元の関係者ら約100人が完成を祝った

- ・オープニング(地歌舞伎「車曳き」、開会宣言、テープカット)
- ・挨拶、来賓祝辞 (青山節児市長、杉本潤中心市街地活性化協議会長、古屋圭司衆議院議員、渡辺猛之参議院議員 他)
- ・ビデオ上映 『ひと・まちテラス界隈 ～親子でくてく、まちなかさんぽ～』
- ・記念鼎談 『人の暮らしと自然が混ざり合う中津川』
(絵本作家 村上康成様、フリーアナウンサー 草野満代様、青山節児市長)



【利用者の声】

- ・駅前の立地のよいところに、様々な要素の詰まった施設ができてうれしい。時間ができたなと思ったら、足しげく通いたい。(市内在住 70代)
- ・中津川の雰囲気漂う木をたくさん使ったすばらしい施設。(市外在住 60代)
- ・子育てが楽しくなるような出会いやサービスがあって、うれしい。(市内在住 20代)
- ・仲間と楽しく料理ができる調理室が魅力的。必ず使いたい。(市内在住 30代)
- ・広くてきれいな図書館で落ち着いて本が読めると思うとうれしい。(市内在住 60代)
- ・勉強するのに学習室やたくさんの机があってありがたい。(市内在住 10代)

付知地域デザインミュージアム (東京大学共同研究)



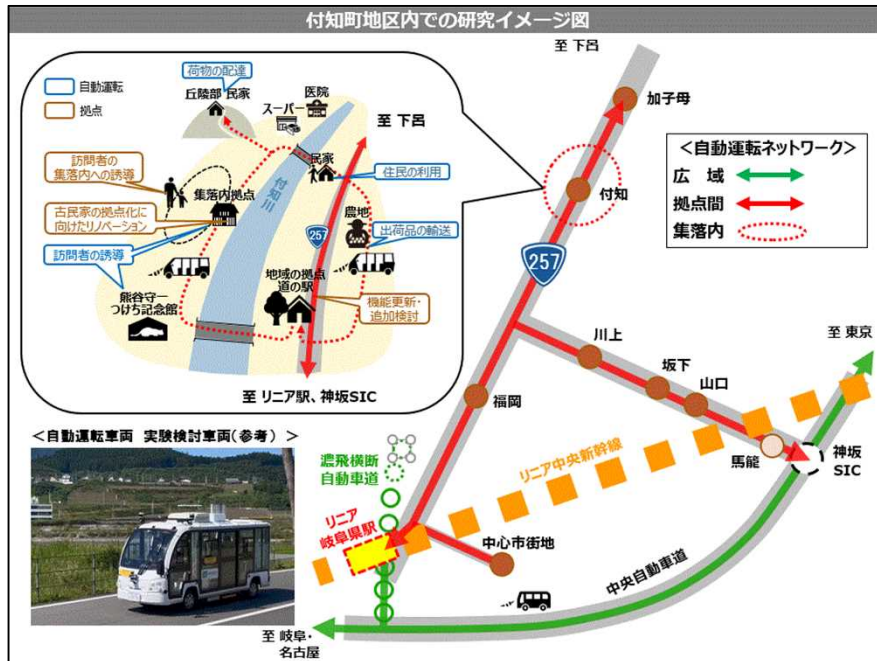
付知峡

- ◇リニア中央新幹線や(仮称)神坂スマートインターチェンジ等、新たな交通網(一次交通)と地域の拠点を結ぶことを研究し、地域交通(二次交通、三次交通)の維持向上や持続的に発展するまちづくりを推進
- ◆付知地域では、地元地域団体と産学官で構成する「中津川市未来技術地域実装協議会」を設置し、「超高速交通網との接続に向けた自動運転ネットワークの導入と地域拠点整備による新たな人の流れ創出事業」として連携推進
- ◆令和5年秋頃の自動運転実証調査(道の駅「花街道付知」～付知地域デザインミュージアム間)に向け検討中

～「飛騨美濃高速回廊」の実現に向けて～

■付知地域デザインミュージアム (令和4年10月開設)

明治8年創業の割烹料理 上見屋の古民家をリノベーションし、地域の拠点を創出



【付知地区での研究内容】

- 自動運転技術の導入・運営
- 自動運転予約アプリの開発
- 拠点の創出・運営



芝生や付知川をイメージした水盤を整備した辻広場



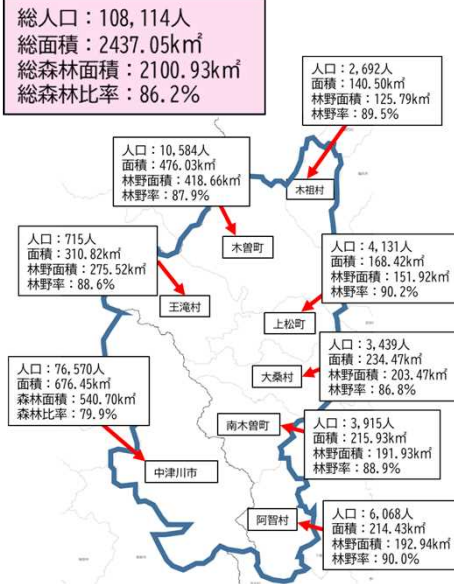
内観

中津川・木曽下伊那広域連携SDGs推進協議会

- ◇中津川、木曽、下伊那の圏域に共通する自然、歴史、文化などの資源を活用した広域でのSDGsの推進により、持続的に発展する地域の形成を目的として、1市7町村(中津川市・木曽6町村、阿智村)で「中津川・木曽下伊那広域連携SDGs推進協議会」を設立
- ◆令和5年8月2日、設立総会と令和5年度第1回協議会を中津川市ひと・まちテラスで開催
- ◆協議会では、「事業計画の方向性」「専門部会の設置」を承認。専門部会「広域観光部会」では、当圏域において共通する自然、歴史、文化等の資源を広域で連携して活用する広域観光に関する調査及び研究し推進していく

地域概要

当圏域は、岐阜県東部と長野県南西部に位置し、総人口約10万8千人、総面積約2千4百km²で、森林比率は86.2%となっている。古くから中山道や東山道の宿場が整備され交通の要衝として栄えるとともに、木曽檜をはじめとする良質な木材の産出や、岐阜県、愛知県の水源地として重要な役割を担っている地域である。



【事業概要(方向性)】

首都圏や関西圏から約1時間でリニア岐阜県駅まで移動できるため、圏域内は在来線やバスで移動し、ゆっくり歩きながら観光や森林浴、カヌー体験、温泉など雄大な自然を満喫できるプログラムを用意し、『森林(もり)の癒し ストレスマネジメントの里』として、国内外から周遊・体験・滞在するリピーターの増大を図り、持続的に発展する地域を形成する。

圏域の現状と課題

- ・少子化や若者の流出などにより、担い手不足や地域経済の衰退が懸念される。
- ・豊かな森林、中山道、東山道、木曽川などの共通する魅力ある資源が豊富にあるが、広域で連携した活用が十分にできていない。

広域連携の必要性

- ・国内外から多くの人々を呼び込み、安全安心して周遊・体験・滞在できる環境を整え、持続的に発展する圏域を目指す必要がある。
- ・リニア開業による新たな人流や物流を、広域に行き渡らせる仕組みが必要である。

広域連携の方向性

- ・共通する資源を広域で一体的に活用する仕組みを構築し、国内外から多くの人々を呼び込み、持続的に発展する圏域を形成する。
- ・リニア岐阜県駅から圏域への交通網の連携により、訪問者の利便性の向上を図る。

事業名

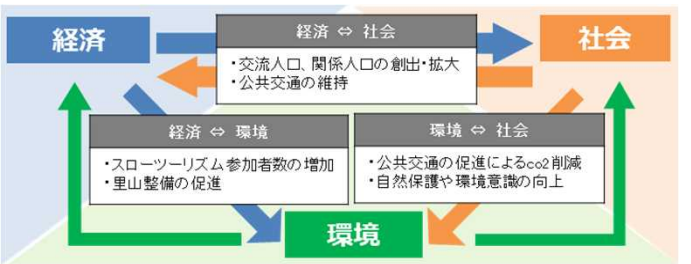
リニア時代に備えた持続可能なスローツーリズム構築事業
～もり(森林)の癒し ストレスマネジメントの里づくり～

目標

リニアの圧倒的な時間短縮効果を活かし、圏域内の雄大な自然にゆっくり触れられる時を過ごし、心身の健康を保持する「森林(もり)の癒し ストレスマネジメントの里」を目指す。



相乗効果等



■設立総会協議会

記念撮影



会長 岐阜県 中津川市長
副会長 長野県木曽郡 南木曽町長

長野県木曽郡 上松町長、木曽町長、木祖村長、王滝村長、大桑村長
長野県下伊那郡 阿智村長



基調講演テーマ：
地方創生SDGs達成への取り組み
講師：
内閣府
地方創生推進事務局
谷 浩 参事官